



アポカン通信

アポイ岳ジオパークHP <http://www.apoi-geopark.jp>
 アポイ岳ジオパークML apoi.geopark@festa.ocn.ne.jp

第1号
 平成26年1月 発行
 様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会事務局(町商工観光課内)
 Tel 0146-36-2120
 Fax 0146-36-2662



イチゴ栽培の話をしている様子

様似のふるさと再発見！

「ふるさとジオ塾」 開講中

アポイ岳ジオパークは、2008年に日本ジオパークネットワークへ加盟して以来、今日まで数々の活動を展開してきました。今回、アポカン通信を発行するにあたり、町民皆さんにジオパークに、より親しみやすく、また身近に感じてもらうため、ジオパーク活動の情報を定期的に発信してまいります。

平成22年9月からスタートした「ふるさとジオ塾」。このジオ塾は町民を対象に、町内にあるさまざまな資源を再発見し、ふるさとへの郷土愛を養う目的で開講されています。

平成25年度は49名の塾生が登録し、4月からスタートしたジオ塾は、今日までにジオサイトを巡るバスツアーやアポイ登山、時には秋サケさばき体験など、色々な角度から自分たちが住んでいる町の学習をしてきました。

今年度も残りわずかですが、1月・2月にアイヌ文化や昆布に関する講演会を開催いたしますので、興味のあるかたはご参加ください。また、平成26年度のふるさとジオ塾は、これまでの取り組みと志向を変え、主にガイド養成を目的にそれぞれの分野の講師を招き、座学を中心としたジオ塾を開催予定です。ガイドをやってみたくもた、ガイドに興味のあるかたはもちろん、ジオパークについて学習したいかたも受付いたしますので、お気軽にご参加ください。(後日、チラシにてご案内いたします。)

みんなの参加をお待ちしています



カンランくん アポイちゃん



6月のジオツアー「アポイ登山」

様似に来て見て体感！

観光客向け「ジオツアー」終了

今年度も観光客向けを対象とした自前ジオツアーを開催しました。このツアーは、町外者に様似の魅力やPRしながら、ここでしかできないことを体験してもらい、リピーターや口コミによる新たな集客を期待するものです。今年度のツアーは、下記のとおり3回開催しました。主に札幌、帯広方面

からの参加が多く、中には岡山県からも参加されたかたもいました。来年度も魅力ある観光客向けツアー(6回)を企画しております。

平成25年度ジオツアー開催一覧

開催日	ツアー名	参加人数
5/11～12	春の花とウニを楽しむフットパスツアー	22
6/8～9	“アポイ岳”花登山と様似の歴史探訪ツアー	23
10/26～27	紅葉の幌満峡と秋のフットパスツアー	14

平成25年度ふるさとジオ塾実施講座

開催日	事業名	参加者数
4/26	ビジターセンター見学	41
5/11	様似八景フットパス	22
5/12	様似山道フットパス	16
6/9	アポイ登山	22
6/23	様似の産業の現場に行ってみよう	27
8/25	地形がたった様似の歴史	29
9/29	サケ定置網漁荷揚げ見学&いくら醤油漬体験	19
10/20	幌満峡の植生を観察しよう	22
11/17	様似の大地の成り立ちを知ろう	12
12/7	オオワシ・オジロワシを見よう	14

アポイ岳ジオパークビジターセンター情報

ジオパークビジターセンター 入館者1万人突破！

4月13日にリニューアルオープンした当センターの入館者が、8月13日に1万人を突破しました。当センターはジオパークの拠点施設として、様似の地質や自然、歴史文化を丸ごと学び楽しむことができる情報館です。

めでたく1万人目に入館された澤井小夜子さん（札幌市在住）には、坂下町長から記念品が手渡されました。

なお、閉館した11月末までに、町内外から1万4346人が当センターに足を運びました。



認定ガイドが審査員へ解説

○ 今後は報告書で指摘された点を精査しながら、再挑戦に向け改善していきたいと考えています。



様似中学校1年生の総合学習

○ アイヌ文化など人文歴史について、国際的な視点で情報を整理、評価し、ジオパークの解説に取り入れる必要性

全国各地から資源の調査研究に來訪

今年度もアポイ岳を中心とした地質や動植物の生態調査研究のために、全国各地から学生や研究者等344名が様似を訪れました。アポイ岳調査研究支援センターを宿泊拠点としながら、主にかんらん岩調査、高山植物の調査やコンプ場の分布モニタリングなど、町内の貴重な資源の可能性を探っています。その調査研究した結果の報告書や卒業論文を知的財産として、町へ貢献していただきます。



エンルム岬裏で岩石を割っている様子

世界ジオパーク推薦申請 審査結果は見送り

一昨年度、再チャレンジへ



8月10日～12日の3日間の日程で、世界ジオパーク推薦申請の現地審査が行われました。この現地審査では、審査員によるジオパーク活動の聞き取りや、実際にジオサイトを巡りながら認定ガイドが解説しました。審査員は、それらを客観的に評価したうえで、日本ジオパーク委員会へ報告書を提出し、世界ジオパークへ推薦するかの判断を委ねるものです。

今回、アポイ岳のほか霧島（鹿児島）、白山手取川（石川県）、昨年保留となっていた阿蘇（熊本）が世界ジオパークを目指しました。結果は阿蘇が世界ジオパークへ推薦申請、アポイ岳をはじめ、他の2地域は今回見送りとなりました。

教育・学習

ジオパークを学ぶ

『小・中学校総合学習』

様似中学校1年生は、6月から7月にかけて総合的な学習「様似再発見」テーマにジオパークを中心とした調べ学習をしました。ジオパーク担当者等が、町内のジオサイトを巡りながらガイドをし、それぞれの班で興味を持った題材をテーマに、自らの足で歩き調べた新聞を作成し発表しました。

ウィークエンドスクール 『石の宝石箱作り』

8月10日、教育委員会主催のウィークエンド・スクールとの共催で「石の宝石箱づくり」を開催しました。参加した12名の子どもたちは、かんらん岩や石灰岩など、様似にある色々な石を拾い集め、それらをハンマーで割って磨き、宝石箱に納めました。